

第 19 回楽しく歴史・文化を探訪する会報告 島根半島四十二浦巡り（パートⅡ）

2023年6月14日（水）出雲市佐香コミュニティセンター服部センター長様のガイドを受け、平田市内の5神社を回りました。

当日は朝からかなりの雨が降って、実施が心配される状況もありましたが、集合場所「ゆらり」についたころから小雨になり、10時のスタート時間には傘の必要もないようになり一安心。

東部からの参加者は、古瀬さんに手配していただいたマイクロバスに松江市のJA古江駐車場から乗車し、安全で快適なスタート。

「ゆらり」からは参加者全員が揃い服部ガイド様の名調子で一気に雰囲気盛り上がり、最初の訪問地、田田神社に着きました。急で長い階段を上るため、足が不自由な方は道路からのお参りとなりましたが、日本海の眺めが良く気持ちよく過ごしてもらいました。この神社は美保津姫命が祭神で、古く江戸時代初期の「出雲風土記抄」には「只浦大明神」との記載があり古代の「田田」の呼称を残していたことが分ります。

また、神社の近くには大正元年に唯浦の青年15人が海難救助に出て帰らぬ人となった出来事があり、大正4年に唯浦の大岩に「義勇の碑」が顕彰されていました。

次の訪問地塩津浦に面した石上神社のご神体は石ですが、神社の裏側に回ると屋根はなく、木の柵に囲まれてその中に御幣・榊などが供えられており、塩津浦の住民の篤い信仰がしのべれます。

三津浦の御津神社は、諾冊の両尊、天照大神、素戔鳴尊など六神が祭神となっています。境内には常設屋根付き相撲場があり、地域で相撲が盛んにおこなわれていることが分ります。三津海苔島は高品質の海苔が取れるところですが、洗濯岩状の険しい岩場での作業は、あちらこちらで太いロープが張っており、難儀な作業であることは明白です。

小伊津浦の三社神社町の中に溶け込むように鎮座しています。三社神社の入り口には他の神社の稲荷社に比べると広い面積を占めていて伝わる信仰の深さが伺えます。

この神社の中心のお世話役が服部ガイド様で、説明には特に力強い思いを感じました。

ここで昼食休憩に「ゆらり」に帰り、1時間たっぷり日替わり定食とアフターコーヒーを楽しみ、久々の友好を温めることができました。

午後は、宇美神社を訪れました。ここは、風土記に「宇美社」、延喜式に「宇美神社」と名を残す古社です。境内には平田天満宮があり、流行り病平癒を祈願する御神幸に由来する陶磁器等で人物などを組み立てる一式飾りは今に伝わり、「牛若丸と弁慶」が大阪の国立民俗博物館に常設展示されています。

以上ですべての日程を終えましたが、午前中に予定していた鞆前神社訪問は時間の都合でできなかったことは残念でした。その他は全て予定した以上の学びと発見ができましたことは服部ガイド様のお陰です。ありがとうございました。

写真で振り返る四十二浦巡り

2023. 6. 14

○田田神社

長い石段を登る



服部センター長様



美しい日本海



○石上神社



○御津神社



○三社神社



○お昼休憩



○宇美神社

